奥秩父

本谷**川金山沢本谷（イサゴ沢）**

遡行日：０９年７月２６日

メンバー　：菊地（リーダー）、金井、糸井、斉藤、新井（記録）

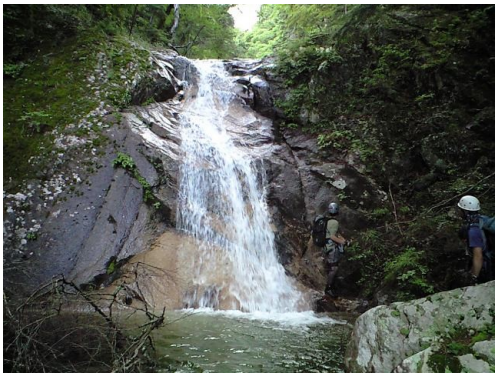
夏合宿の足慣らしということで奥秩父の日帰りの沢へ行った。ちょっとした事故を起こしてしまったが、とても勉強になった。

前夜、みずがき湖ビジターセンター駐車場で斉藤さんと合流。斉藤さんは近くの岩に河崎さんと登りに来ていたとのことで既にテントで休んでいた。我々もテントを張る。今日のテントは新井がダイクマで十数年前に買ったバッタもんである。山では到底使えないがここなら問題ない。しかし建ててみると何かイカ臭い。というかかなりイカ臭い。そういえば数年前に友人Ｔに、キャンプに行くので貸してくれと頼まれて貸したことがあった。それ以来全く使っていない。友人Ｔはかなり変な奴なので何か間違った使い方をしていないか心配だ。しかし、お酒好きなこのメンバー。入山祝いの日本酒につまみの塩辛、スルメ等ですぐにイカ臭さは気にならなくなってしまった。

６：３０　　みずがき湖ビジターセンター出発。しばらく本谷川沿いの道路を進む。車から見る限り、どこでも簡単に川に降りられて魚も釣れそうだ。途中からダート道に入る。道は悪く、木の枝が張り出していたり、枯木が倒れていたりする上、道を横切っている水流もいくつもありオフロード車でないとキツそうだが菊地さんはズンズン入って行く。入渓点近くのスペースに駐車して、一台は下山予定地のみずがき山荘にデポする。

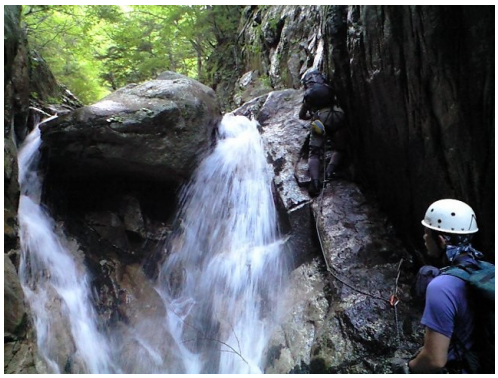
７：３０　　沢仕度をして出発。ちょっと歩くと林道は埋まって自然消滅していた。しばらくは堰堤がいくつかあるのであまり水に入らずに左から越して行く。どんどん晴れてきて水も岩もキラキラ輝いて美しい。

８：１０　　Ｆ１の８ｍ滝。



ガイドブックには巻いた方が無難とあるが水流右を登る。念の為ロープを出すがこのメンバーなら余裕である。山友会の山行では状況にもよるのだが、無理はしないが登れる滝はなるべく登るというスタイルが多いように思う。とてもいいと思う。

８：３０　　Ｆ２の５ｍＣＳ滝。



真ん中に大岩がはまっていて水流を二分している。左はザックを背負ったままでは狭くて難しいか。右はホールドに乏しい５０～６０度くらいの傾斜の岩で、右の壁との隙間に５～１０センチのクラックがあり、そこをうまく使って攀じ登り、最後の乗っ越しは左脚のスタンスの取り方が難しい。斉藤さんが先頭で登り最後に新井。後ろから見ていると登り方も４人４様で微妙に違い面白い。新井はそれを参考にいいとこ取りで行けるのでうまく登れた。

９：００　　４m滝。菊地さん、斉藤さんがＦ２で使用したロープをかたづけている間に糸井さんと金井さんは先に進んでもう見えない。新井が滝の中段にいて、斉藤さんはそのすぐ後ろ、菊地さんは下の釜から登り始めたところだった。直径１５センチ、長さ２mほどの流木が斜めに引っ掛かっていて行く手を塞いでいた。そっと行けば良かったのだが、新井は流木を跨ぐ時に怖くてグラつくそれをつい掴んでしまった。その時、流木は動いた！ズルっと動いて、新井は直後にいた斉藤さんもろとも約５０センチ滑り落ちたが太い木に引っ掛かって止まった。流木はそのまま落ちていき斉藤さんのヘルメットの天面と菊地さんの肩を直撃、菊地さんは浅い釜の中に落ちた。斉藤さんは軽い脳震盪状態で目の前を星が飛んでいたと言っていた。菊地さんは肩の打撲で内出血した。２人は屈強な男性だったのでこの程度で済んだが他の人だったらどうなっていたことか。不安定な岩や木を掴まない、という当たり前のことを当たり前に出来なければ大きな危険に繋がる。大いに反省して今後に生かしたい。

９：５０　　事故を起こしてしまったというショックとは裏腹に空は晴れて　太陽は眩しい。渓相はずっとゴルジュ状だ日当たりが良く明るく、ゴルジュにありがちな暗さや圧迫感はない。目の前に魚が上を向いて口を開けた様な岩が出てくる。これがイルカ岩か。イルカというより魚だよね、と皆言っていた。

１０：０５　　沢はガレ気味になってきて流れも消えたり出たりを繰り返すようになる。

【　台形岩　】

【　ピラミッド岩　】

そんな中、台形岩やピラミッド状の大岩が出てくる。この辺りの山は岩登りのルートも多く巨岩、奇岩も多い。しかし、イルカならまだしも自然の岩がこんなにきれいに

ピラミッド状になるだろうか。何か人為的なものではないのか。古代文明か、はたまた宇宙人か？そういえば沢筋にときどき不自然に石が積み上げられていたのを見た。明らかに人の仕業である。シカにはあんな芸当は出来まい。かつてここイサゴ沢は砂金が採れたと云う。イサゴとは砂金の意味なのだ。黄金のある所、古代文明があったとしても不思議ではない。う～む、マンダム。

１１：１５　　源頭部の急なガレ場をしば

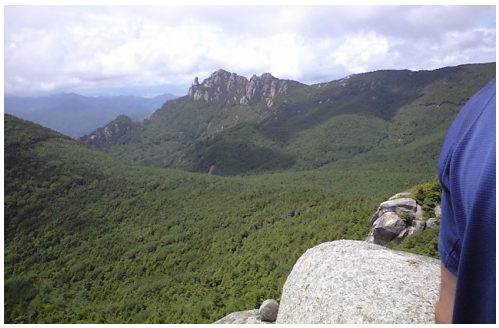
らく登った後、森へ突入。ここの森は樹の根の下が空洞で、上に苔が厚く生えている。踏み抜いてケガをしない様に注意が必要だ。

１１：４０　　稜線に出る。休憩して下山準備をする。

１２：１０　　下山スタート。しばらく歩いて朝日岳方向を見ると何と、稜線近くにモアイ像が見えるではないか！メンバーも本当にそっくりだと言う。これでこの辺りに古代文明があったという確信を持った。いつか埋蔵金を掘り当ててやる。

１２：３０　　大日岩。天気が良く本当に気持ちがいい。周辺を散策して楽しんだ。

【　大日岩　】



【　大日岩からの眺め　】

【　屈強な男2人　】

１４：２０　　みずがき山荘着。

今回は天気に恵まれ、事故さえ起こさなければ素晴らしく完璧な山行だったと思う。この失敗を生かし、これからはより安全で確かな遡行が出来るようにしたいと思います。ありがとうございました。